

四旬節第3主日

第一朗読 出エジプト 17・3-7

福音朗読 ヨハネ 4・5-15、19b-26、39a、40-42

2023.3.12

カトリック高円寺教会

主任司祭 高木健次神父

今日の第一朗読では、イスラエルの人々が荒れ野の旅の間に、水が無くて神様に不平を言う、そしたら神様がモーセを通してホレブの岩から水をお出しになった、という場面が朗読されました。ホレブというのは乾いているという意味なんです。だから、乾いた岩から。元々そこに水がありそうな所を教えてくれたというのではなくて、乾いた所から。つまり、神の力というのは人間の判断で何も無いと思われる所でも、ちゃんとそこに命を支える糧を準備してくださる、そのような神様への信頼に招く出来事だったわけです。

今日、わたしたちは答唱詩編（「典礼聖歌」35番）で詩編95を読みました。この詩編95は、今日で使われるのは途中になっていて、この後には「今日、神の声を聞くなら、メリバのように、マサの荒れ野の時のように、神に心を閉じてはならない。あの日、あなたがたの先祖たちは、わたしのわざを見ていながら、わたしを試し、試みた。」と続いて、第一朗読で読まれた先祖たちの轍を踏まないように、神様への信頼を無くさないように、と戒める詩編になっています。司祭とか修道者が「毎日唱えます」と約束する「教会の祈り」というのがあります。それは詩編とかから成っていて、昔の言い方で言えば聖務日課と言われるものです。その一番最初「初めの祈り」は詩編95から毎日始まります。つまり、どんな状況においても神様の導き、あるいは、そこに生きる道はないのだというふうに絶望してはならないということを、詩編を通して自分に言い聞かせるということでしょうか。そこから始まるようになっています。

わたしたちにとっての最大の誘惑は、この状況ではもう生きることはできないんだ、この状況には神の恵みはないんだ、って表面的な人間の目で勝手に判断して、そして希望を捨ててしまうということのようです。その他の、いろんな四旬節の節制を約束したけどそれを破ってしまうとか、そういうのは、一番大きな誘惑——希望を失うように自分で判断して、そこには道がないって勝手に決める——そういう誘惑に比べたら、ある意味では取るに足りないということかも

しれません。わたしたちはいろんな周りの状況から影響を受けながら生きていますけれども、しかしそのことに支配されてはならないということです。

福音の中ではイエス様が、サマリアの女性との対話の中で、サマリアの女性が「神様をほんとに礼拝する場所はエルサレムですか。それともサマリアの人たちが大切にしているゲリジム山ですか」ということを聞いてくる。でも、「エルサレムでもゲリジム山でもない。神様との繋がりは場所に左右されないんですよ」ということをおっしゃいます。霊と真理っていうのは目に見えない。でも、聖霊はわたしたちの心の中に宿って、父と子と聖霊、神様との繋がりへと招いてくださる。霊はそのかたです。そして、そのときに神との繋がりをいただいた者は真理を得る。真理というのは、ヘブライ語で言うと「エメト」と言います。アーメンと同じ語源です。「アーメン」というのは「固い」とか「間違いない」という意味です。真理というのは、固いもの、揺るがないものっていうイメージです。正しいとか間違ってるというよりも、揺るがないっていう。わたしたちが神様との繋がりをいただくときに、わたしたちは揺るがないんだっていうことをイエス様はおっしゃった。それが、エルサレムに行かなければとか、ゲリジム山に行かなければ神と繋がれないという、そういう外的な状況には左右されないということです。

固い、揺るがないっていうのは、決して頑固者になるという意味ではありません。むしろ、どんな状況においても、どんな場所においても自分が生きることができるという、その命の与え主であるかたへの信頼を失わない、そういう意味では、表面的に見れば、いろんなことに適応していけるという、そういう姿に表れて来るんじゃないかと思います。

ですので、わたしたちは改めて振り返りながら、ほんとの意味で神様との繋がりを、そして揺るがない真理、つまり、わたしたちが神様と繋がっているということ、いつもお祈りの最初に「父と子と聖霊の御名によってアーメン」と唱え、自分は父と子と聖霊、神様のことを知っている、その神様と繋がっている、そこが揺るがないんだって、ある意味では言い聞かせるというか、信仰告白をします、その中でいろんな状況に適応して、そこに恵みを準備してくださる神様に信頼しているだろうか、それともこうでなければ自分は生きられないんだ、自分にとっての恵みはこういうことが起こることなんだって勝手に決めつけて世界を狭くしてはいないだろうかということを振り返ってみるということは意味があるんじゃないかなと思います。

今日もわたしたちをご自分との繋がり、霊と真理によって繋がっていく、そして今与えられた状況を生きていくように招かれる神様の招きに心を開いて、ほんとの意味での助けをいただきたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>